

ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業 ~これまでとこれから繋ぐ 十七字~

- 【絆部門】 最優秀賞 つくりたい きれいなちまき 母さんと (小3)
子に伝え 三角ちまき 祖母の技 (母)
- 【ふるさと部門】 優秀賞 釣り竿の 先に広がる 青い海 (中1)
幾千の 涙の先に 子の笑顔 (母)
- 佳作 うまいもも えらぶてんさい カブトムシ (小2)
桃の出来 今年も確認 祖父と孫 (母)



<作品集>



絆部門 3,845点 ふるさと部門 1,600点 合計5,445点の応募がありました。特に「久しぶりのお祭りや花火大会に行くことができた喜び」「震災の経験や思いを大切にしようとする気持ち」をテーマにした作品が多く見られました。

たくさんの御応募ありがとうございました。

家庭教育支援者地区別研修会

演題 「コロナ禍で急増!インターネット依存 ~ネット依存における親の関わり~」

子どものインターネット利用の現状や依存についての講演・演習では、子どもがネットやゲームにはまってしまう心理やネット依存にならないために家族がどのように関わっていけば良いかを学ぶことができました。

<ネット・ゲーム依存の現状>

- ・ 学習と遊びの区別がつきにくい。
- ・ 遊び目的の使用が長時間利用の原因になる。
- ・ ゲームの時間が長くなるにつれて学業や仕事に影響が及ぶようになる。

病的なネット依存が疑われる
中高生の割合
7人に1人



不祥事根絶のために

今年度も管理訪問等を通して、各校の不祥事根絶のための取組を確認しました。どの学校も不祥事根絶のための行動計画のもと、服務倫理委員会や人事評価に係る面談などの機会を活用して、不祥事を自分事として捉え、当事者意識や危機意識を高める取組を工夫して行っていました。

そうした取組を各校でしているにも関わらず、県内において、わいせつ事案による懲戒処分が相次いでいることは残念でなりません。また、県北域内でも、セクハラによる懲戒処分が発生しています。

各校においては、児童生徒等へのわいせつ行為、不適切な指導、職員へのパワハラやセクハラについてのこれまでの取組を検証し、未然防止のための実効ある取組を行っていきましょう。



事故防止のために

○ 教職員の負傷事故防止

今年度の教職員の負傷事故としては、児童生徒の指導中のアキレス腱の断裂や骨折、校舎内の移動中の転倒や階段の踏み外しによる骨折などが多く見られます。十分な準備運動をしたり校舎内に潜む危険性を考慮した慎重な行動をしたりして、負傷事故を防止しましょう。

○ 交通事故防止

今年度発生した交通事故のほとんどが、周囲の状況をよく確認していれば防ぎことができた事故でした。年度末を迎えるこの時期は、忙しさから心にゆとりがなくなり、交通事故が心配される時期です。疲労を蓄積させないよう心掛け、ゆとりを持った気持ちでハンドルを握るようにしましょう。



<常勤講師・非常勤講師募集中!!>

現在、来年度の各種補充の講師が不足しており、講師等に採用可能な人材を探しています。やっていただけそうな方の情報がある場合は、管理職にお伝えください。



教育広報

発行所



県北の教育

福島県教育庁県北教育事務所

福島市杉妻町2番16号

☎024-521-2813

発行者 川井 孝寿

巻頭言

「子どもたちにとって、どのような先生で・・・」

県北教育事務所業務次長 笠原 聡美

「あなたは、どんな先生になりたいですか。」
今から三十数年前、新採用教諭になりたての私は、この質問に、

「元気で明るい先生になりたいです。」と答えました。この頃は、何の疑いもなく意気揚々と答えていましたが、今になってこの答えが間違っていたことに気が付きました。

それは、「子どもたちにとって」という一番大切なことが抜けていたということです。つまり、「私がどのような先生になりたいか。」ではなく、「子どもたちにとって、どのような先生でありたいか。」ということです。

間違いに気付いた現在の私。さて、この問いに何と答えるのでしょうか。それは「子どもたちにとって、冬の青空のような先生であり続けたいです。」と。

福島市で生まれ育った私は、冬の空といえは「曇り空」「ねずみ色の空」であり、どんよりと曇ったねずみ色の空は、いつも私のやる気を削いでいきます。朝起きるとすぐに、窓のカーテンを開け、天候を確認するのが習慣となっている私は、どんよりとした曇り空を見るとやる気を削がれるばかりでなく、不安やあせりも覚えます。「ああ、今日も曇りか」「雪が降るのかな」「早く出勤しなければ」「車の運転が心配だ」、とにかく、冬のねずみ色の空は、私に「不安」「あせり」「心配」をもたらすのです。

しかし、「冬の青空」は違います。私に「やる気」「安心」「暖かさ」を与えてくれます。そして凜とした空気は、私の姿勢を正してくれます。

相馬市の学校で校長として勤務していたときのこと。冬の朝、どんよりと曇ったねずみ色の空から、車を走らせ相馬へ向かうと、少しずつ青空が広がってきます。その青空を見るたびに、「今日も頑張ろう」というやる気のみならず、心身がほぐれ、自然と笑顔になっていく自分がいました。

子どもたちに「やる気」「安心」「温かさ」を与えられ、姿勢を正せる。そして、子どもたちが自然と笑顔になる。こんな先生になれば、どんなにいいだろう。こんな先生であり続けたい、と思うのです。

では、自分は「冬の青空のような先生」であったのでしょうか。いや、どちらかと言えば夏の青空のような先生だったのではないかと思います。「暖かさ」ではなく「暑さ」を子どもたちに与えていたのではないかな。真夏の太陽のようにじりじりと、もしくは湿気の多い福島の夏のようにじめじめと子どもたちを追い詰めてはいなかったかな。「明るさが大事だ」と自分本位に子どもたちを照らし続け、子どもたちが休める日陰(逃げ場)を作っていたかな。とにかく、反省しきりです。

三十数年前の私に教えてあげたい。「『自分がどのような先生になりたいか』ではありませんよ。『子どもたちにとって、自分がどんな先生になりたいか』ですよ。」と。

皆さんは、子どもたちにとってどのような先生になりたいですか。





子どもの夢を生み出す 教師の夢中



ICT機器の活用と情報モラル教育の両輪！

ふくしま「未来の教室」授業充実事業・次世代のためのメディアリテラシー育成事業

実践協力校

伊達市立伊達東小学校
伊達市立柳蔭中学校



クラウドアプリを使用した1人1台端末の活用方法について授業実践を積み重ねています。子どもたちが主体的にタブレットで写真を撮り、共有しながら意見を交わしたり、授業の振り返りを学習履歴としてクラウド上に残して学びを自覚したり、様々な場面で活用しています。

安心して、新たな一歩を

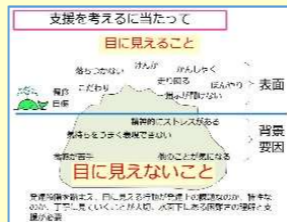
スペシャルサポートルーム (SSR)実践校
福島市立福島第四中学校、福島市立信陵中学校
福島市立北信中学校

不登校や不登校傾向の子どもたちにとって新たな居場所となっている SSR。温かな環境をつくり、の中でその子自身に学習を計画させたり、様々な体験をさせたりしています。各校とも、子どもに寄り添っていくと、試行錯誤を繰り返しながら実践しています。また、SSR 担当だけでなく、学校全体で子どもたちを支えるために、支援委員会を組織したり、小中連携を通してより早い段階で保護者や子どもたちとつながったりする取組も行われました。これらの取組を参考に、「特別な教室」を整備する学校も増えてきており、子どもたちが安心して、新たな一歩を踏み出すきっかけとなっています。

あっ！この支援、あの子にも

切れ目のない支援体制整備事業

今年度は、地域支援センター等で特別な支援を必要とする子どもの相談支援 (36 件) を行いました。通常学級在籍の児童生徒の割合は 75%、発達障がい割合も 75% でした。指導支援に当たっては、子どものつまずきの目に見えない背景要因から多面的に検討することが必要です。学級担任や特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任等、より多くの教員でケース会議を行い、学校全体で実践を共有することが、「この支援、あの子にも」のひらめきに、つながります。



教職員研究論文 福島一小 柴田 淳平教諭 県特選！

令和4年度 第51回 福島県教職員研究論文

今年度、県北域内からは5点の応募があり、1点が特選に入賞しました。応募されたいずれの論文からも、先生方一人一人が自校の課題をしっかりと捉え、目的意識をもって日々の教育活動に真摯に取り組まれている様子がうかがえました。受賞者並びに応募された方々は次のとおりです。



〈特選〉 個人研究 学習指導 (体育科) 福島市立福島第一小学校 教諭 柴田 淳平
子どもと共に「わかった！できた！」を創造する体育学習
～【つなぐ】をコーディネート視点とした授業づくり～

〈応募者〉

- ◇学習指導 (国語科) 福島市立清水小学校 教諭 鹿股詩央里
- ◇学習指導 (生活科) 福島市立大森小学校 教諭 菊地 陽子
- ◇学習指導 (生・給科) 二本松市立渋川小学校 教諭 本田 政史
- ◇学校経営 大玉村立大山小学校 教頭 高橋 秀幸

入賞作品は、近日中に県教委のHPに掲載される予定です。

「幸せを紡ぐ」 県北の挑戦！



令和4年度県北初任者のマーク



学びがいがあるコアティーチャーによる公開授業！

理数優秀教員活用事業・授業研究会より

算数・数学科コアティーチャー
伊達市立上保原小学校 教諭 石山 宏美
福島市立清水中学校 教諭 村田 利公

全国学力・学習状況調査を踏まえて、求められている資質・能力を育む授業づくりに取り組み、それぞれ2回、授業を公開しました。問題発見・解決の過程に沿った授業により、生き生きと授業に臨む子どもの姿がありました。



理科コアティーチャー

本宮市立糠沢小学校 教諭 藤堂 剛史
伊達市立桃陵中学校 教諭 佐藤 峻一

それぞれの公開授業に共通して、主体的に問題解決に向かう子どもの姿がありました。自然事象との出会いや、そこから生まれた疑問を基にした授業展開がポイント。事後研では子どもの姿を基に授業を振り返り、授業力アップにつなげました。



英語による発信力の強化！

小中英語パートナーシップ事業
本宮市立本宮第一中学校、本宮市立本宮まゆみ小学校
本宮市立本宮小学校

公開授業では、伝える相手を具体的にイメージした言語活動が行われました。また、1人1台端末を活用し、録画した自分の姿を確認しながら振り返り、上達を実感しました。研修者の振り返りには、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況の必要性を改めて感じた。」「言語活動-中間指導-言語活動をとおして子どもが上達する姿を見ることができた。」「CAN-DOリストの見直しを図り、生徒の態度に合ったものにした。」「等が記されており、授業改善に対する熱い思いが伝わってきました。



道徳教育×全職員=みんなの成長

道徳教育推進事業
推進校 伊達市立松陽中学校

子どもの主体性、自己肯定感をよりよく育みたいという思いが、研究の出発点でした。道徳科授業では、「自己を見つめる」時間に、自分のよさを実感できるように努めました。また、年に3回計画した道徳教育講演会の運営を、思い切って子どもに任せました。すると、困った時に友達と相談しながら何とか進めようとする主体的な姿が見られるようになりました。教師は温かく見守り、会の終了後に大いに価値付けました。思いを揃えた道徳教育の推進により、子どもも教師も、共に成長を実感しています。



特活を(要)に、教育活動をつなぐ

キャリア教育推進事業
モデル校 福島市立杉妻小学校

「なりたい自分」の実現に向けて学び続ける子どもの育成を目指し、「ここでほめたい！」姿を教員間で共有しました。また、自己の学びを見つめる「振り返り」を、どの授業でも大切にしました。「学活は楽しい時間」「グレーの色合いを決めていくのも学級会」研究発表会の指導助言の言葉です。互いの存在を尊重し合う温かな雰囲気の中、子どもたちが本気で話し合い、合意形成する中で学級の文化がつけられていきます。そして、学級会の積み重ねで一人一人が「なりたい自分」に成長していきます。来年度の研究発表会も楽しみです！



共に学び共に成長する！

専門高校生による小中学生体験学習応援事業
伊達市立梁川小学校、福島市立平野中学校
福島商業高等学校、福島工業高等学校

専門高校で学ぶ生徒が小中学校の児童生徒に、高校で身に付けた知識や技能を伝える本事業。小中学生は、将来の進路選択を身近に感じながら高校生の姿に憧れを抱き、高校生は自らの歩みを振り返りながら、小中学生に精一杯おもてなしをする。わずか2時間の体験学習で、子どもたちの内面が大きく変わりました！



県北授業レシピ

あなたの授業に魔法のひとさじを

「自分手帳」を活用した授業実践例も紹介されています。ぜひ御覧ください！

ヒントが見つかりそう！

